



研修旅行レポート

オーストラリア

2023

10月19日～23日

株式会社 清和設計事務所

作成者: 久保 友有輝

今回5日間ある研修旅行の中で、2日間はシドニーでの研修だった。その中で、私はオペラハウス、クィーン・ビクトリア・ビルディング、ダーリング・エクスチェンジ図書館について書きたいと思う。

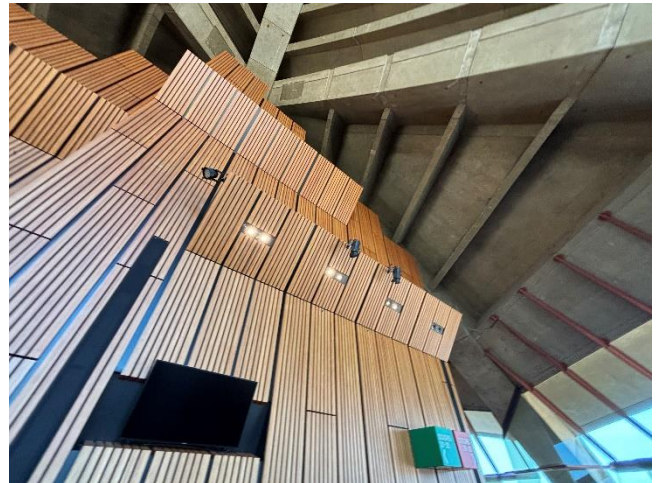
・オペラハウス

オペラハウスは、1954年に開催された国際コンペティションで、233案出された中から当時無名であったデンマークの建築家ヨーン・ウツソンの作品が選ばれました。外観は、船の帆や貝殻の集合体を想像させる建物となっておりとても独創的なデザインとなっている。また、オペラハウスは1959年から工事が始まり、当初予定の10年遅れ1973年に完成し、工事費は当初予算の14倍以上かかったそう



だ。また、外観のタイルは白と薄い肌色を合わせた色合いをしており遠くから見ると矢印型のデザインをしている。しかし、近くで見ると小さいタイルを組み合わせ一つの矢印型を形成していることが分かる。このタイルは、外壁であり屋根の役割もあるため汚れが自然に洗い流されるように設計されているそう

だ。内装は、極力仕上げをせず躯体であるコンクリートを見せることで開放的な空間としながら曲線のデザインも同時に見せることで視覚的にもおもしろい空間となっていた。

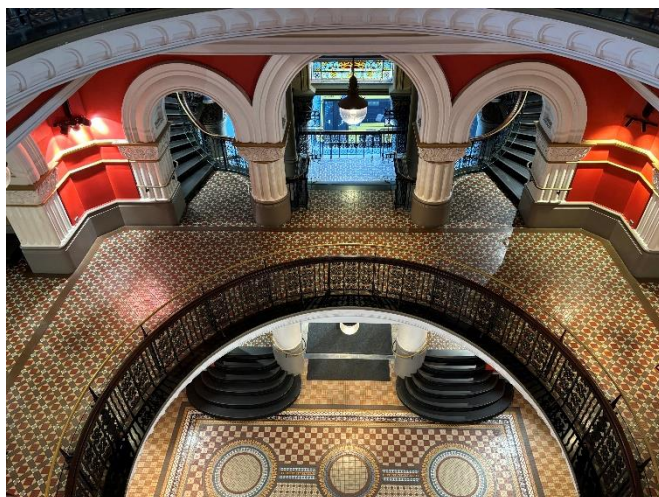
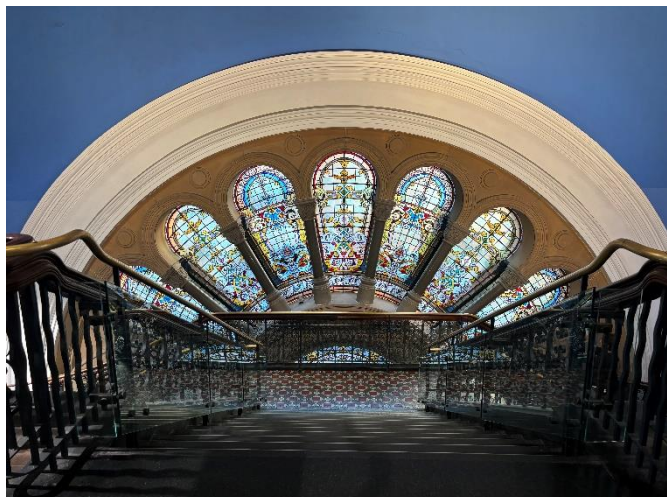


・クィーン・ビクトリア・ビルディング

クィーン・ビクトリア・ビルディングは、シドニーのジョージ・ストリートに面しているショッピングセンターでイギリスの建築家ジョージ・マクレイがデザインし1898年に完成した建物である。周囲は、近代建築が多くありクィーン・ビクトリア・ビルディングだけが時代に取り残されたような雰囲気があるが、周囲の建物の高さが同じくらいであるのと植栽により自然と空間となじんでいるような雰囲気もありとても美しい建築物であった。



内装は、柱・床・廻り縁に至るまで細かい装飾がされ、欠けや埃等も少なく丁寧な維持管理がされている事が目で見て分かった。また、至る所にステンドグラスがあしらわれていてとてもお金をかけて建てられたことが窺える。



・ダーリング・エクスチェンジ図書館

ダーリング・エクスチェンジ図書館は、ダーリング・ハーバーにある鳥籠の様な建築物で、建物までのアプローチと建築物の外観が繋がっているデザインとなっている。建築家は、日本の隈研吾で2019年に完成した。この建物は、図書館だけではなく1・2階はレストラン・フードコート、最上階は幼稚園などの複合施設となっている。

また、外観の木材が周囲からの視線を遮るため図書館フロアは、窓際でくつろいでもゆったりとできる空間となっており鳥籠の中はこんな感じなのかと感じる雰囲気がある建物であった。

